

1 学校教育目標
自分らしく 元気に 持てる力を精一杯発揮し 人と関わりながら 主体的に学び生活する児童生徒の育成

2 本年度の重点目標
<p><かがやく児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ○元気で笑顔あふれる児童生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・ (教務・研究) 活力あふれる児童生徒の育成に向けた日々の授業の充実 ・ (保体) 心身の健康増進と体力の向上、食育の推進と保健指導 (性教育) の充実 ・ (進路指導) 児童生徒の自立と社会参加に向けたキャリア教育、進路支援の充実 ○仲間と仲良くする児童生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・ (生活指導) 「認め合い、ほめ合い、励まし合い、助け合う」心の育成 「天草支援学校いじめ0宣言」を守る児童生徒の育成 ・ (人権教育) よりよい人間関係作りを目指した人権教育の推進 ・ (保体) 「いのちを大切に作る心」を育む指導の充実 ○主体的に活動に取り組む児童生徒 <ul style="list-style-type: none"> ・ (教務) 学校・学部教育目標、年間指導計画等の根拠に基づく教育実践 ・ (教務・研究) 児童生徒の実態を踏まえた諸計画の的確な立案と授業における具現化 ・ (生活指導) 児童生徒会活動の充実、児童生徒の主体性を最大限に尊重した教育活動 <p><かがやく学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域に信頼され、地域とともにある学校 <ul style="list-style-type: none"> ・ (保体・防災・事務) 安心・安全な学校づくりの推進と防災体制の強化 ・ (教育支援) 特別支援教育のセンター的機能発揮のための諸事業の推進 ・ (総務) 学校運営協議会及びCSの継続と深化 ○学習環境の充実と環境教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ (教務・研究) 小・中・高の連携と各学部の持ち味を生かした教育の展開 ・ (保体) 組織的な環境教育の実施と評価 ・ (情報) ICTの活用による学力の向上及び校務の効率化 ・ (保体・事務) 花と緑の環境づくり推進 ○教職員間の協働 <ul style="list-style-type: none"> ・ (総務) 業務のスリム化と分掌部及び学部間の円滑な情報共有が可能となる組織的運営 教職員間のつながりの充実と創立50周年記念事業の円滑な運営 ・ (研究) 専門性の維持・向上に向けた研究、研修体制づくり <p><かがやく地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ○交流及び共同学習の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ (総務) 近隣小中高等学校等との交流の充実 ○各関係機関及び高等部移設に伴う関係部署との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ (教育支援) 校内支援体制の充実と天草地域特別支援連携協議会及び関係機関との連携 ・ (総務) 天草拓心高校との連携及び地域理解の推進 ○コミュニティ・スクールによる地域連携の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・ (CS・総務) 本校の教育活動についての情報発信及び地域人材活用の推進 ・ (研究・教育支援) 地域資源を生かした授業づくりの推進及び地域貢献 ・ (防災) 地域や近隣高校と連携した防災体制の継続

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	安全・安心な学校づくり	・衛生管理・安全管理を徹底することができたか。	・衛生面や安全面でのリスクを最小限にするために、各マニュアルを見直し改善する。	・アンケート等で集約した意見を基に分掌部で検討し、シミュレーションを重ねることで機能的なマニュアル作りにつなげる。	A	・感染症等の状況に応じてその都度、予防の対応について全体に周知。ヒヤリハットの入力フォームの改善や報告の提示方法を変更したことで円滑な入力と報告確認が定着。分掌部としてもヒヤリハットの報告がタイムリーになったことや報告方法がシンプルになったこ

			<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的に校内外の環境整備を行い、児童生徒が快適かつ安全に活動できる環境づくりを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎間の教職員全体で連携するとともに、児童生徒も学習の一環で環境整備に携われる機会を設定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ とで業務が改善。 ・ ICT支援員と連携しながら、iPadで手軽に入力できるように安全点検の書式を改善。事務部と連携し、修繕箇所等に対して、迅速に対応。生徒の学習の一環として、プール清掃やエアコンフィルター洗浄等の機会を設定。今後も環境整備を通して、児童生徒にとって学びの機会になるよう設定。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危機管理に係る体制整備及び情報発信ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施した訓練の検証結果や学校を取り巻く状況の変化等を踏まえた危機管理マニュアルの見直しや更新を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各訓練後の教職員アンケートを集約するとともに、マニュアルとして必要視される事項を吸い上げ、危機管理マニュアルへ反映させる。 ・ 災害種ごとに、発生時にとるべき初期行動や連絡体制等のポイントをまとめた図表を作成し、危機管理マニュアルに追記する。 ・ 定期的に保護者・教職員向けに防災通信を発行し、危機管理や防災に関する情報を積極的に発信・共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各訓練後の教職員アンケートから成果や課題についての意見を収集し、危機管理マニュアルに反映。次年度も定期的に避難訓練を実施しながら、本校の環境や状況を踏まえて危機管理マニュアルを見直し、安全安心な体制を整備。 ・ 災害種ごとに発生時のポイントをまとめた図表について、防災教育担当者と検討し、危機管理マニュアルに反映。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学期に防災通信を作成（計4回）し、保護者、職員に発行。今後も防災に関する情報を発信し啓発。
業務改善・働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効率的な業務遂行によって、時間外勤務を抑制することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正規の勤務時間以外の従事時間の平均値を前年比から減少につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務整理等を通して業務負担の軽減策を講じる。 ・ 効率的な業務遂行に係るモデリングを示しながら、教職員の意識改 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時数の適正化を踏まえ、学部間調整及び教育課程の整理を図りながら、R6年度から週2日の短縮授業日設定を実現。 ・ 早帰り日と遅帰り日を職員のニーズに合わせて設定。その都度、効率的

				革を図る。		な業務遂行方法等を助言。退勤時刻を意識した働き方が浸透。
不祥事防止	<ul style="list-style-type: none"> ・風通しの良い職場づくりに努め、不祥事を防止することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の困り感等を含めた状況を把握・共有し合い、よりよい改善策を積極的に講じて、職場改革につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい学校・職場づくりアンケート等を実施して、教職員の困り感及び改善策を集約・整理し、衛生委員会や運営委員会等を活用しながら、実動に移す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に業務対応等に係る職員アンケートを実施。職員の困り感や要望、アイデア等を集約、共有。総務会、衛生委員会、運営委員会で、具体的対応策等を整理し実動。職員夕会等やClassroom等で、日常的に不祥事防止策等を共有しながら、綱紀の保持及び服務規律の徹底に関する意識を再確認。ゆとりの確保と報連相の徹底等を図りながら、組織力を向上。 	
学校の取組等に係る情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等を中心とした取組の様子をHP等で積極的に情報発信することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な情報発信を行い、多くの人に本校の取組を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HP更新の年間計画を作成し、学校HPと併せて熊本県教育委員会の「フォトニュース」等を活用する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・HP更新の年間計画を作成し、各学部月1回以上の更新を実現。熊本県教育委員会の「フォトニュース」に記事を計4回投稿し、情報発信。 	
授業の充実	質の高い授業づくりにつながるカリキュラム・マネジメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・教務支援システムに係る諸様式を効果的に活用できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸表簿等の関係様式（出席簿、個別の教育支援計画、個別の指導計画、通知表、指導要録等）の記入内容、運用方法を定める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種様式の活用に係る各学部の意見を教務部で集約し、学校全体として、統一したポイントを踏まえた見本を作成する。 ・保護者等からの諸様式の内容や取扱いに係る意見を集約し、情報共有ツールとしての機能性を向上させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各種様式について、「保護者に伝わりやすい。見やすい。」を前提に、よりよい情報共有ツール機能としても活用できるように、保護者からの意見を集約し、文章の書き方や体裁を各学部で検討。学校全体として統一した部分や各学部独自の様式及び見本（本年度及び次年度）を作成。
		<ul style="list-style-type: none"> ・各学部のニーズに応じた研究を通して、教育課程の改善及び授業実践力の向上を図ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の専門性向上を図り、よりよい実践の展開及び教育課程の改善につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部の実態に応じた課題を設定し、共有・意識しながら実践及び話し合いを重ねる。各学部の実践を 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部の実態、課題に応じたテーマに沿った授業研究を毎月実施。各学部のテーマに基づき、目標達成につながる授業の在り方や授業後の取組について協議。

				適宜まとめて全体周知する。		<ul style="list-style-type: none"> それぞれの学部 of 取組については、全体で共通理解を図る方法の検討が必要。
		<ul style="list-style-type: none"> ICTの効果的な活用を踏まえた効率的な授業づくりが展開できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの効果を教職員一人一人が把握し、児童生徒の実態に応じた教材を選択して授業づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材の使用の有無を含めて授業後に評価を行い、ICT教材の有効性について、教職員間で共有しながら意識を高め合う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の年間指導計画に評価記入欄を追加。評価日を設定し、確実な評価入力を実施。 夏季休業中の研修やICT通信を通して、実践や活用方法を紹介。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の視点を踏まえ、将来のために今の生活や学びを充実させることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 系統性を意識したキャリア教育の充実を図る。 児童生徒が将来の働く生活をイメージできるよう、各関係機関と連携を図りながら、高等部現場実習や中学部職場体験を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学部の実態に応じたキャリア教育の取組状況を共有できるよう、学部を越えて取組を紹介する機会を設ける。 児童生徒や保護者の実情やニーズに合わせて、労働及び福祉の関係機関と連携しながら実習先の調整、児童生徒・保護者への情報提供を行う。 児童生徒や保護者が卒業後の生活をイメージできるよう、高等部現場実習や中学部職場体験を設定するとともに、各関係機関と連携協力を図る。 福祉サービスの利用に向けて、市町の福祉課と情報交換を行い、就労アセスメントを計画的に行えるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 分掌部会での活動紹介及び、進路だよりの供覧にて、職員同士で学部を超えて進路に関する情報を共有。 現場実習の事前挨拶や反省会等で保護者や労働福祉の関係機関と情報を共有。必要に応じて事業所の情報を提供し、卒業後の生活の実現に向けた協議を実施。 高等部は現場実習、中学部は職場体験を実施。高等部では、実習後の反省会にて、生徒とその保護者が、具体的な卒業後の生活について考え、事業所等と一緒に振り返りを実施し、それらの情報を次の実習先の選定等に活用。 就労アセスメントは、予定通りに実施。実施人数が多い中、市町の福祉課や相談支援事業所、就労移行支援事業所と連絡し合いながら対応。

	進路に関する情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 進路に係る情報提供ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒、保護者、担任に対し、進路情報を定期的に提供する。 教職員やPTAを対象とした進路研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者のニーズに沿った進路情報を「進路だより」で発行する。 進路面談で高等部生徒、保護者、担任が卒業後の進路選択ができるよう、進路情報を事前に共有する。 教職員やPTA役員の意見を踏まえてPTA進路研修（視察研修を含む）、教職員進路研修を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路だよりの定期発行を予定していたが、時期がずれて不定期になったため、次年度は具体的な発行月を設定して定期発行予定。 現場実習後の進路面談で生徒にとって望ましい卒業後の生活について共有。望ましい実習先や、卒業後の進路について必要に応じて情報を共有。 当初予定していたPTA進路（視察）研修は1回少なく実施したが、事業所を訪問しての研修は2回実施。その他、コロナ禍以前の状況に戻ってきたことで、事業所で開催されるイベントが増えてきたため、事業所のことを知ってもらう機会として安心メールにて保護者へ情報を提供。 PTAを対象として、天草市役所の福祉課による「福祉サービスの利用」の研修会を実施。
生徒（生活）指導	交通安全指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 登下校指導を含め、交通安全に係る指導を徹底できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部情報の活用や関係機関と連携し、交通安全に係る意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校指導を計画的に実施する。 警察と連携し、交通安全の取組や危険箇所等の最新情報を児童生徒及び保護者に提供する。 学部の実態に応じて交通安全教室や自力通学等講習会を行う。 居住地の危険箇所を確認し、児童生徒及び保護者と共有する。 自転車使用時のヘルメ 	A	<ul style="list-style-type: none"> 登下校指導を各学期1回実施。計画以外にも必要に応じて登下校指導を実現。 小学部において、天草警察署から講師を招聘し、横断歩道体験などを通して交通ルールの理解を深化。 中学部、高等部の自力通学生生に対し、交通安全教室を実施。 長期休業前に居住地における危険箇所を伝え、安全意識の向上を実現。保護者に向けて危険箇所が確認できるHPサイトの情報を提供。 自転車使用時のヘルメット着用を奨励し、自転車通学

	児童生徒 会活動の 充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の主体的な取組を推進できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会や「天草支援学校いじめ0宣言」など、児童生徒会主体で実施する。 児童生徒会が中心となり、校則の見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ット着用を奨励する。 児童生徒会で定期的に話し合える場を設け、主体的に活動ができる環境を整える。 全児童生徒の意見を集約できるよう、校則に関するアンケート調査を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生のヘルメット着用者が増加。 定期的に話し合える場を設け、児童生徒会の主体的な活動が増加。高等部では天草拓心高校生徒会との交流も実現。 児童生徒、保護者、職員からの意見を集約。児童生徒の意見が反映された内容での校則の見直しを実現。
人権教育 の推進	人権教育 及び命を 大切にす る心を育 む指導の 充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒及び教職員の人権意識を高めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な人権課題について知ったり考えたりしながら、各々の人権感覚を高め合う機会を設けるとともに、人権教育に関する指導方法等の理解を深めながら、授業改善につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「第三次とりまとめ」について確認し合うなど、各々が人権教育の指導に反映しやすい校内研修を3回実施する。 児童生徒の実態に合わせた人権教育の在り方について教職員間で情報を共有し合い、人権教育の質の向上を図る。 児童生徒が掲げる人権目標を掲示しながら、互いに人権意識を高め合う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育全体研修を4回実施。「第三次とりまとめ」については、事前に動画視聴を行い、生徒の情報を共有し、人権学習について深く考えることを実現。 児童生徒の実態に合わせ、人権尊重の視点を意識した授業を再考。各学部の人権教育の取組について情報共有を図る研修を設定。研修日時等について要検討。 各学部で人権意識を高めるために、人権目標を設定し、掲示。人権を大切にするために生徒自身が行動目標を考え、振り返りを実施。
いじめ の防止 等	未然防止・ 早期発見・ 早期対応	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未然防止・早期発見・早期対応の充実を図ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員に対し、いじめ事案における組織的対応について周知し、未然防止・早期発見・早期対応の意識向上及び実践の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回のアンケートによる情報収集に加え、児童生徒のSOSを出しやすい体制を整える。 教職員研修を実施し、根拠となる法令や具体的な対応の在り方について理解を深める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 年2回のアンケートより、20件の児童生徒同士のトラブル等を把握し、トラブルの解消及びいじめの未然防止を実現。 いじめ防止に向けた職員研修を実施。組織的な対応や児童生徒や保護者からいじめの相談があった際の初期対応について確認。

地域支援	幼保小中高等学校への支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小中高等学校への支援の充実を図ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談等において幼児児童生徒の実態及び園内・校内支援体制を踏まえた助言を行う。 ・天草地域特別支援連携協議会事務局校として、天草教育事務所と連携し、各種会議を機能させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困り感のある児童生徒の学習状況や言動についての行動観察及び授業のUD、教室環境のUD、人的環境のUDの視点からの授業観察を行う。 ・天草地域の特別支援教育に関する課題やニーズを把握し、関係機関との連携を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談実績は延べ266件。約半数は通常学級からの相談。UDの3つの視点から授業内容や学級づくりについて適宜助言。同様の視点での職員研修も17校（園）で実施。 ・天草地域特別支援連携協議会設置要項を見直し、体制整備を行い、各種会議の目的を明確化。2市1町の連携を強化し、市町村特別支援教育推進チェックリストをもとに総括を行い、次年度の志向を整理。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・各サポート体制の充実を図り、めざす学校像を実現できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CSビジョン図において、本校の実態や取組目標の共有を図り、CSの3つのサポートチームでの取組目標の8割達成を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研修を行い、本校のCSの取組について全教職員で共通理解を図る。 ・3つのサポートチームの取組計画及び内容を学校運営協議会委員と共有しPDCAサイクルを機能させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の本校の実態について各学部で協議し、令和5年度版ビジョン図を作成。 ・3つのサポートチームの取組については、分掌部会でのPDCAサイクルを機能させ、目標の8割を達成。学校運営協議会でも総括し、貴重な意見を集約。
	県立天草拓心高等学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・県立天草拓心高等学校との連携協力体制を充実させることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備を円滑に共有、活用しながら、教育活動の充実を図る。 ・体験活動や協力活動、行事等での交流、連携を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県立天草拓心高等学校の教職員との連携を深め、施設活用等に関する情報共有を綿密に行う。 ・共に学ぶことの大切さを共有できるよう、児童生徒に関する共通理解を図りながら交流活動の機会を積極的に取り入れていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動（授業及び学校行事等）の円滑実施に向け、天草拓心高校との施設活用等に関する定期的な情報共有会を月1回実施。 ・交流活動（天草拓心祭・天支フェスタ合同開催、作業学習交流、収穫体験、牛舎見学等）、50周年記念式典において郷土芸能部による天草ハイヤ披露を通して交流を実施。 ・本校特別支援教育コーディネーターが生徒対応等の相談に対して助言。

				<ul style="list-style-type: none"> ・合同での避難訓練等を行い、各種災害に対し、的確な情報収集及び共有方法や役割分担等の防災機能の強化を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開日に本校職員が多数参観。 ・共同防災訓練を2回実施。実態に沿う避難ルート、場所、防災設備を確認、防火管理体制を確立。
周年行事	創立50周年記念事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・創立50周年記念に係る各種事業を効率的に推進することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・式典を中心に、教職員の負担感に配慮しながら、各事業を円滑に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各業務担当と情報共有を図りながら、進捗状況を把握・共有し、実情に応じて柔軟な計画の修正及び業務バランス等の調整を図る。 ・特別支援教育課や地域の方々を含めた外部関係者との連携を密にし、円滑な計画運営につなげる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の負担感を考慮しつつ、役割分担や早めの情報共有等を徹底し、効率的に業務を遂行。 ・地域とのつながりを深めることを意識した児童生徒の体験的な活動を計画的に展開し、地域との関係性を深化。 ・創立50周年記念式典では、関係者等をお迎えし、「感動した」等の多くの称賛を受けるなど、児童生徒も参加者も一体となって充実した時間を共有。

4 学校関係者評価

- ・創立50周年記念式典に参加し、とても充実した式典であった。日常の交流活動や地域活動では、ほのぼのとした様子や一生懸命な姿が見られ、参観している側が感動させられる。
- ・新型コロナウイルスが5類に移行したことで、地域行事も徐々に再開しているが、特別支援学校の先生方が地域行事に積極的に参加し盛り上げていただいていることに感謝している。今後も地域活動への積極的参加をお願いしたい。
- ・児童生徒に対して丁寧に対応されている取組が、子供たちの生き生きとした姿や落ち着いた姿として表れている。幼少期に落ち着いていなかった子が、すべきことを分かって落ち着いて過ごしている姿に感動させられる。子供たちの学ぶ姿から教職員の専門性の高さを感じる。学校の取組を積極的に地域に発信してほしい。
- ・本年度に取り組みされた「みつばちラジオ」での放送を通じた学校紹介の取組は、実によかった。毎年、恒例な取組として、地域への理解・啓発につなげてほしい。
- ・大災害時の対応として、子供たちが安全・安心に過ごせるよう、避難場所等に関する学びや確認・整理が必要である。被災地支援に行かれた相談支援事業所の方々からの助言や意見を集約して参考にしていくことも大切にしていきたいのではないか。
- ・個に応じた教育がしっかりと展開されている。専門性向上やICT活用については、十分達成できていると感じる。特に、ICT活用に関して、教職員の努力のみならず、保護者や地域への理解・啓発を含めて、社会を巻き込んだ取組として、操作・活用方法等を含めながら、できていることや取り組んでいることを積極的に発信・共有をしていくことで更なる充実につながるのではないか。
- ・幼少期から相談対応等をしてきた頃の子供の様子と比較すると、特別支援学校に入学してから成長の大きさを感じている。丁寧な教育活動の成果でもある。今後も関係機関との連携を大切に、教育の充実につなげていってほしい。

5 総合評価

- ・学校教育目標の実現に向けて、児童生徒に寄り添いながら、今そして将来の生活に生きる力の習得をめざした教育活動を展開できた。創立50周年記念の各種事業を通して、体験活動等による地域とのつながりも深まった。
- ・本年度の重点目標として掲げた天草拓心高等学校との連携について、施設共有及び交流学习が更に充実した。生徒会のつながりも深まり、天草拓心祭と天支フェスタの合同開催は大盛況であった。様々な連携の深まりを今後につなげていく。その他、カリキュラム・マネジメントとして、授業時数の適正化を踏まえ、教育課程の見直しを実施した。令和6年度から、週2日の短縮授業日を設定し、保護者との面談及び関係機関等とのケース会議、授業準備等に活用していく。
- ・自己評価総括表において、18項目中14項目(77.8%)がA評価。喫緊の課題でもある「専門性向上」、「ICTの活用」がB評価であり、次年度は、プログラミング教育の視点から、授業の充実を図り、「専門性向上」、「ICTの活用」につなげたい。その他、人権教育及び進路に関する情報発信では、負担を軽減させながら効率的かつ効果的な情報共有方法を整理していく。今日、公文書管理や保護者との情報共有等、新たなシステムツールの導入が過渡期を迎えており、柔軟に対応しながら活用度を高めていきたい。

6 次年度への課題・改善方策

- ・円滑な学校経営…各種システム(教務支援システム、RPA、すぐーる等)の効率的・効果的な運用、働き方改革の徹底、校舎間の円滑な情報共有
- ・教育活動の更なる充実…専門性向上、ICTの活用、プログラミング教育の視点を生かした授業づくり
- ・天草拓心高等学校との更なる連携強化…交流活動の充実、施設・設備の円滑な共有化、防災対応に係る連携
- ・長寿命化改修工事に伴う環境整備…安全確保、教育活動の場の工夫、進捗状況の共有
- ・文部科学省指定「学校安全総合推進事業」…計画的な推進、学校運営協議会との連携